

夏の営農情報

JAとうと経済部営農支援課

① 気象予報と生育について

7月21日発表、気象庁3カ月予報

	8月	9月	10月
平均気温	高い見込み	ほぼ平年並み	平年並か高い
降水量	ほぼ平年並み	ほぼ平年並み	ほぼ平年並み

本年夏の気象予報は、気温は高い予報となっており、収穫時まで猛暑が続くと予想されます。猛暑下においては、不稔や白未熟の増加が懸念されます。米の登熟のために適切な水管理を行い、米の品質・収量確保に努めていきましょう。また、気温が高い為収穫時期が早くなる可能性があり刈り遅れ等による胴割粒の危険性が高まっていますので、注意が必要となります。

② 出穂後の水管理について

米の品質向上には、出穂後の水管理が重要です。圃場内の水が切れたら再度入水する「間断かん水」を基本としますが、猛暑による過度な水温上昇を回避すべく、こまめな水管理が必要になります。

稲は穂を作り始める時期から、必要とする水の量が多くなります。一方、日中の猛暑で熱せられた水は、夜間も水温が下がりにくいため、高気温の日が続くと常時高温となり、稲が疲弊してしまいます。このため、より効果の高い「飽水管理」を、可能であれば行いましょう。飽水管理とは、足跡や溝に水が残る程度の状態（飽水状態）を維持することで、地温が下がりやすくなります。

※水が少ない分、気温の低下に連動します。また、気化熱により地温も低下しやすくなります。

また、収穫作業を見据えて早期に落水してしまうと、米の登熟期における根の活力低下や茎葉老化に繋がり、収量や品質の低下・胴割れ・倒伏の原因となりますので、出穂後30日間は出来るだけ水を切らないようにしましょう。



③ 稲刈り後の処理について

稲の刈り跡から再生する穂（ヒコバエ）は、ウンカ、カメムシの餌場や住家になっています。また、コンバインから排出されるわらや稲株は、そのままにしておくと分解が進まず、翌年の代掻き作業等の邪魔になるとともに、田植え後、メタンガスや硫化水素の発生原因になる為、稲刈り後は早めの耕起を行って下さい。

※熱中症にご注意！

猛暑が続いています。熱中症には十分ご注意ください、無理に作業を続けることなく、こまめに水分補給や休憩するなど、身体の安全の確保に努めましょう。

J Aとうとでは、肥料農薬をはじめ、水田・畑作の病害虫や栽培管理、農機対応等についてのご相談を承っております。お気軽にご連絡ください。

また、水稻共済に加入された方で、風水害、病害、虫害、鳥獣害等の被害がありましたら、岐阜県農業共済組合（東濃支所）にご連絡をお願い致します。

J Aとうと経済部営農支援課（栽培管理）

電話：68-5120

（瑞浪市）J Aとうと 経済センター

電話：68-5128

（土岐市）J Aとうと ふれあいパーク浅野

電話：54-7788

（多治見市）J Aとうと 多治見営農センター

電話：27-2914

岐阜県農業共済組合（東濃支所）

電話：0573-25-8805

